

陽はまた昇る

観賞日 2021年11月22日

【概要】

制作 2002年 上映時間 108分

監督 佐々部清

脚本 西岡琢也、佐々部清

音楽 大島ミチル

撮影 木村大作

出演 西田敏行（加賀谷事業部長）、渡辺謙（大久保事業部次長）

緒形直人（江口涼平）、真野響子（加賀谷圭子）、篠原涼子（柏木夏佳）

夏八木勲（武田社長）、仲代達矢（松下幸之助）、井川比佐志（門脇光蔵）



【あらすじ】

1973年3月。日本ビクター社員の加賀谷静男は横浜工場事業部長に就任する。独立採算制を採る本社は人員削減を求めてくる。加賀谷は総勢241名の技術者の生命を守るための戦いを始める。営業経験のない技術者が営業現場に出て初めてユーザーのニーズを知る。秘かに、家庭用ビデオの開発を進めてきた矢先に、ライバルのソニーからベータ方式の製品が発売される。不眠不休の開発を続け、ソニーに遅れること1年、ついに日本ビクターもVHS方式のビデオを完成する。

VHSをスタンダードにするための第2ラウンドの戦い。ベータ有利の状況の中で、通産省の反対を押し切ってVHS陣営の構築を目指す加賀谷は大阪のカリスマに直訴する。VHSの底力を信じて生産、販売に邁進する事業部員。親会社の松下がついにVHSの採用に舵を切り、静観を決め込んでいた有力各社もVHS陣営に参入する。退職を決意した加賀谷が最後に会社の屋上から見たものは？

新製品の開発に命を懸ける技術者たちの奮闘。技術立国日本の最前線を支える技術者の意地と執念を描く、熱き男たちの感動物語。

【解説】

■ポイント

●ベータ対VHSのビデオ戦争

・家庭用ビデオの規格争いで、ソニーが1975年に「ベータ」方式のビデオを発売したのに対し翌年日本ビクターが「VHS」方式のビデオを発売し、ビデオ戦争が勃発

・ベータは画質、音質等技術面で優位に立ち、VHSは価格面で優位にあった。

ベータ陣営：ソニー、東芝、三洋、NEC・・・

VHS陣営：日本ビクター、松下、三菱、日立、シャープ・・・

・勝敗：VHS陣営の勝利

理由は録画時間の長さ、販売店数（当時は量販店ではなく、メーカー系列の販売店が販売の主力）等でVHSが勝っていた。

■見どころ

●西田敏行と渡辺謙の名優共演

西田敏行（加賀谷事業部長）：技術屋、高卒のたたき上げ、退職間近。

渡辺謙（大久保事業部次長）：事務屋、大卒エリート、加賀屋の右腕

なお、二人の役にはモデルがある